2021 年度（令和 3 年） 連携総合ゼミ実施報告

JICA 草の根技術協力事業(支援型)『ハイズオン市の市民に対する地域連携訪問サービスのモデルづくり』

1. 日程:2021 年 8 月 30 日（月）～9 月 3 日（金）5 日間集中講義(オンライン開催)

2. 実施経過

2 月 26 日（金）～3 月 12 日（金）　「新 4 年生オリエンテーション」連携総合ゼミの説明（オンデマンド）

3 月中　各学科にて連携教育研究センター運営委員より広報

4 月履修開始～ 7 月 26 日（水）　履修登録期間

連携総合ゼミナール(5 日間)

- 8 月 30 日(月)2 限　「オープニングオリエンテーション」
  開会の言葉 新潟連携教育センター長　松井 由美子
  学長講演　西澤 正豊先生 『多職種連携と地域包括ケア』
  3 限　集中ゼミ開始 Teams によるオンラインゼミ　18 グループ

- 8 月 31 日(火)　ゼミ 2 日目　Teams によるオンラインゼミ　18 グループ

- 9 月 1日(水)　ゼミ 3 日目
  3 限　コーヒーハウス
  海外参加者との学生交流会(担当：菊元先生、豊田先生)
  アンヘレス大学、サントトーマス大学（フィリピン）
  中山医学大学(台湾)、ハイズオン医療技術大学（ベトナム）
  新潟医療福祉大学　スプリングボード部学生
  10 時 35 分～　卒業生 2 名(理学療法士、義肢装具士)（同窓会から）事例ラウンド

- 9 月 2 日(木)　ゼミ 4 日目

  17 時まで 発表用ビデオスライドの提出(日本語、英語版)

- 9 月 3 日(金)　ゼミ 5 日目
  9 時　「連携総合ゼミ発表会(オンライン)」　一週間視聴可
  13 時 10 分「連携総合ゼミ修了式(オンライン)」
  学長挨拶　西澤 正豊先生
  閉会の言葉 新潟連携教育研究センター長　松井 由美子

担当教職員：伊藤嘉高（部会長・司会）、桑原桂(英訳)、佐藤未希・間宮靖幸（学生割振）、村田憲章(協力教員募集)、伊藤嘉高（アンケート）、豊田典子（通訳・翻訳）村山萌子、本間美雪（教務課）、大野あかね（国際交流・JICA）

3. 本年度の新たな試み

1)オンライン開催

昨年度に引き続き、新型コロナ感染症の拡大を受けて Teams を使用したオンライン開催とした。発表はビデオスライドの日本語版、英語版で e キャンパスで公開され 1 週間視聴可能とし、意見・感想を記入してもらった。

2)事例・参加者の増加

昨年度は新型コロナウィルス感染症の拡大により規模も縮小され、参加者も激減したが本年度は学生・教員を含めて 200 名以上の参加となり、海外の大学や国内の他大学の参加も多く事例数は 18 事例となり、オンラインではあったが活気ある連携総合ゼミとなった。

3)JICA 草の根技術協力事業(支援型)のプログラムとして開催

JICA 草の根事業のプロジェクトは昨年の 2020 年 9 月 3 日にキックオフミーティングを開催し、昨年度からハイズオン医療技術大学の学生と教員がプロジェクト目標である連携総合ゼミを学ぶため参加され、本年度も 2 回目の参加となった。本プロジェクトは『ハイズオン市の市民に対する地域連携訪問サービスのモデルづくり』であり、本学の連携総合ゼミをハイズオン医療技術大学の学生に移行し、ベトナムの地域連携訪問実習に生かしてもらうことを目標としている。今年度もハイズオン医療技術大学の学生 12 名（医学 4 名、理学 3 名、看護 5 名）が参加し去年に引き続き多職種で対象者の支援策を考える方法を学ぶ機会となった。

4. 継続イベント

1)コーヒーハウスの開催(海外参加者との交流会)

海外参加者が今年は多く、菊元先生、豊田先生の司会の下で海外大学紹介と本学の紹介による活発な学生交流会となった。アンヘレス大学、サントトーマス大学（フィリピン)、中山医学大学(台湾)、ハイズオン医療技術大学（ベトナム）の海外 4 大学の大学紹介のあと、新潟医療福祉大学　スプリングボード部学生による大学紹介が行われ、どの大学も興味深い内容で、先生方のテンポの良い司会で楽しい交流会となった。

2)同窓会から卒業生の参加(日時　9 月 1 日水曜日 10:35～)

理学療法学科 1 名、義肢装具自立支援学科 1 名参加

・理学療法士、病院勤務

・義肢装具士、義肢製作会社勤務

〇オンラインで 2 名一緒に各ゼミに Teams で参加してもらった。各グループメンバーからとても参考になり有益であったとの感想が聞かれた。

5. 今後の課題など

1)新型コロナウィルス感染症の中での開催方法の検討

・昨年度よりはアンケート結果にも、オンライン開催でもグループワークやスライド作成もうまくいったという回答が得られたが、やはり対面でやりたいという気持ちは多くの学生が共通に抱いた感想であったので、感染防止を徹底した対面での実施を目指すためにも準備を進めたい。

2)時期・開催方法について(集中ゼミの開催または週単位の開催)

・現在、カリキュラム改正に向けて、連携教育の開催時期や履修学生の増加に向けての検討が行われ、連携総合ゼミについても複数年度での開催など全学科の意見をもとに案が出されている。様々な学科で実習時期などを考慮しながら検討が行われている。

6. 参加総数:204 名(学生 135 名、教職員 69 名)

大学	学科	学生数	教職員数	
新潟医療福祉大学	義肢装具	2	1	本学
	作業療法	7	2	
	理学療法	19	3	
	言語聴覚	3	2	
	社会福祉	9	8	
	健康栄養	5	4	
	看護	11	14	
	視機能科	8	3	
	健スポ	4	2	
	医療情報	3	4	
	救急救命	5	0	
	診療放射線	0	4	
	臨床技術	0	1	
	大学院生	4		
	事務局		3	
計		80	51	
新潟薬科大学	薬学	13	2	国内他大学
日本歯科大学新潟短期大学	歯科衛生	5	2	
新潟リハビリテーション大学	理学療法	10	2	
	作業療法	2	1	
計		30	7	
アンヘレス大学	学生(理学)	4		海外他大学
	教員		3	
サントトーマス大学	学生(理学)	2		
	学生(作業)	2		
	学生(言語)	1		
	学生(スポーツ)	1		
	教員		0	
中山医学大学	学生(医学)	3		
	教員		0	
ハイズオン医療技術大学	学生(医学)	4		
	学生(理学)	3		
	学生(看護)	5		
	教員		8	
計		25	11	
参加総数		135	69	204

昨年

参加総数		71	52	123